

明治27(1894)年神戸市に生まれた岡本神草(本名・敏郎)は、大正4(1915)年に京都市立美術工芸学校(美工)絵画科を卒業すると、京都市立絵画専門学校(絵専)に進学します。学年を超えて美工卒業生によって結成された密栗会に参加し、最初は当時流行っていた新南画風の作品を出品します。大正5年頃から生涯のモチーフとなる舞妓を、竹久夢二風に描くようになります。徐々に《口紅》(大正7年)のような、浮世絵の影響を受けた官能的な画風へと変わっていきます。絵専卒業前後から、一緒に祇園を徘徊した同級生の木村斯光、板倉星光、堀井香坡らも同じ雰囲気を持つ作品を描いており、彼らとともに新興美人画家として注目されます。大正9年の第3回国展には、やはり舞妓をモチーフとし、心理的な隈といべき陰影を施すことにより、神秘的な存在感を出した《拳を打てる三人の舞妓の習作》を出品して、その将来を期待されました。その後菊池契月に師事し、昭和に入ってからは、かつてのような官能性を前面に押し出すのではなく、そこはかとなく漂わせるような作風に移りますが、十分な展開を見せる前に、惜しくも昭和8(1933)年、38歳の若さで亡くなりました。

本展覧会は、《口紅》、《拳を打てる三人の舞妓の習作》等、これまでに知られた作品だけではなく、寡作なうえ、早世したために数の少ない本画を可能な限り集め、素描、下図、資料類100点ほどを加えてその画業を紹介する、岡本神草の大規模展です。同時に、甲斐庄楠音などと一緒に競い合った同時代の作家や、師にあたる契月の作品も展示します。神草作品の持つ時代性や特異性も知ることができるまたない機会となるでしょう。



① 岡本神草《口紅》大正7(1918)年 京都市立芸術大学芸術資料館  
② 岡本神草《婦女遊戲》昭和7(1932)年 リーガロイヤルホテル大阪  
③ 甲斐庄楠音《横櫛》大正5(1916)年 京都市立近代美術館  
④ 菊池契月《少女》大正9(1920)年 京都市立近代美術館  
⑤ 福垣伸静《太夫》大正8(1919)年頃 京都市立近代美術館  
⑥ 木村斯光《清姫》大正末期 笠岡市立竹喬美術館  
⑦ 板倉星光《王妃》大正10(1921)年 京都市立近代美術館  
⑧ 岡本神草《お貞子ちゃん》大正3(1914)年 京都市立近代美術館  
◎会期中、一部展示の入れ替えがあります。



「しんざうのぬりゑ」

11月1日(水)~12月10日(日) 美術館1階ロビーにて  
会期中、美術館1階にアトリエスペースが登場。  
ぬり絵を楽しみながら、岡本神草の世界にひたってみませんか?  
参加無料、どなたでもご自由にお立ち寄りください。

[関連イベント]

講演会「岡本神草の時代展について」

11月25日(土) 午後2時~3時半  
講師 小倉実子(京都国立近代美術館主任研究員)  
会場 京都国立近代美術館1階講堂  
聴講無料、先着100名  
(午前11時より1階受付にて整理券を配布します)

[会期中のイベント]

京都市立芸術大学 ホワイエコンサート  
日時 11月18日(土) 午後5時10分開演  
会場 京都国立近代美術館1階ホワイエ  
入場料 無料(当日先着100席)  
共催 京都市立芸術大学

映画上映 NFC所蔵作品選集

MoMAK Films 2017 チェコ映画特集  
上映作品(予定):『夜のダイヤモンド』(1964年)、  
『火事だよ! カワイコちゃん』(1967年)、ほか  
日時 12月1日(金) 午後6時~、12月2日(土) 午後2時~  
会場 京都国立近代美術館1階講堂  
料金 1プログラム 520円(当日券のみ)



交通案内:

JR・近鉄・バスをご利用の方

- JR・近鉄京都駅前(A1のりば)から市バス5番 銀閣寺・岩倉行 「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ
- JR・近鉄京都駅前(D1のりば)から市バス100番(急行) 清水寺・銀閣寺行「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ

阪急電鉄・京阪電鉄・バスをご利用の方

- 阪急烏丸駅・河原町駅・京阪三条駅から市バス5番 銀閣寺・岩倉行 「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ
- 阪急烏丸駅・河原町駅・京阪四条駅から市バス46番 枇杷・平安神宮「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ

市バス他系統をご利用の方

- 市バス他系統「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」または「東山二条・岡崎公園口」下車徒歩約5分

地下鉄をご利用の方

- 地下鉄東西線「東山」駅下車徒歩約10分  
※当館には駐車場ございません。岡崎公園駐車場(地下)をご利用ください。  
※岡崎公園駐車場をご利用の有料入館者は、駐車場の割引(1台につき1回)を受けられますので駐車券をお持ちの上お越しください。

京都国立近代美術館

606-344 京都市左京区岡崎円勝寺町 Tel:075-761-4111  
テレホンサービス(展覧会のご案内) 075-761-9900  
<http://www.momak.go.jp>

# 岡本神草の時代展

## The Age of Okamoto Shinso

京都国立近代美術館 | 岡崎公園内 | The National Museum of Modern Art, Kyoto



覚悟の裁断

開館時間=午前9時30分~午後5時、ただし金曜、土曜は午後8時まで開館(入館は閉館の30分前まで)

休館日=毎週月曜日 主催=京都国立近代美術館

観覧料=一般 1,000(800)円、大学生 500(400)円 •( )内は前売り、20名以上の団体料金

•高校生以下および18歳未満は無料 •心身に障がいのある方と付添者1名は無料(入館の際に証明できるものを提示ください。)

•本展の観覧料で、同時開催のコレクション展もご覧いただけます。 •前売券は、10月31日までの期間限定発売。

前売券の主な発売場所: ローソンチケット(Lコード57395)ほか、主要ブレイガイド、コンビニエンスストアなど

(チケット購入時に手数料がかかる場合があります)

夜間割引

会期中、金曜日と土曜日は午後8時まで開館。夜間開館日の午後5時以降は夜間割引を実施します。  
一般 1,000円→800円、大学生 500円→400円(他の割引との併用はできません)

12/11  
10/1 sun. wed.



未完に終わった  
最初の「拳を打てる三人の舞妓」  
89年を経て発見

《拳を打てる三人の舞妓》  
大正8(1919)年  
京都国立近代美術館



ついに完成し 第3回帝展に  
出品されたが  
所在不明の三作目

《拳を打てる三人の舞妓》  
大正10(1921)年



表情に神秘性を求め  
何度も描き直した  
原寸大の下絵

《「拳を打てる三人の舞妓」下図》  
大正9(1920)年  
京都国立近代美術館

## 《拳を打てる三人の舞妓》同じ題材に3度挑む！

第1回国画創作協会展で甲斐庄楠音らと共に、華々しく画壇デビューした岡本神草。しかし、第2回展の出品記録には、どんな事情があったのか、名前がありません。1920年、満を持しての第3回展に向けて、彼は《拳を打てる三人の舞妓》の大作を制作していましたが、締め切りに間に合わず、なんと！画面中央の舞妓のみを切り取って出品しました。それは何とも不思議な構図の作品でした。そうまでして出品しようとする神草の強い意志は、直前の制作日誌に記された「朝断然不可、切断、夜急遽上京」の一行に表れています。その後、1987年に、切り取られた残りの部分が発見され、67年の永い時を経て、三人の舞妓が再会を果たしたのでした。

After having his graduation work from the Kyoto City Specialist School of Painting shown in the 1st Kokuga Sosaku Kyokai Exhibition (an event known for its careful selection process), Okamoto Shinso (1894-1933) was highly acclaimed for his reimagining of the traditional *bijin-ga* (pictures of beautiful women). In the late 1920s, Okamoto switched from an early emphasis on overt eroticism to a more subtle approach, but died prematurely at the age of 38. This exhibition, the first full-scale retrospective of the artist's work, traces Okamoto's career through approximately 100 works, including as many of his paintings (of which there are very few) as possible, drawings, rough sketches, and documents. The exhibition will also include works by rival artists of the period such as Kainoshō Tadao, providing viewers with an overview of Okamoto's own output as well as a historical framework and a sense of his idiosyncratic approach.



《拳を打てる三人の舞妓》大正9(1920)年 京都国立近代美術館